

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570209015		
法人名	有限会社ケアサービスおちあい		
事業所名	グループホームおちあい		
所在地	秋田県能代市落合字上釜谷地187-2		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和4年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、協力医療機関の医師による訪問診療、訪問看護事業所との連携を整えております。近隣には能代厚生医療センターもあり、緊急時には迅速に対応しております。近隣には商店街やスーパー、日常的に買い物や散歩等、外出しやすい条件が整っています。入居者様、ご家族様、職員と一緒に楽しみ、活動や行事をともに出来るよう企画し、より深い絆を築くことが出来るよう努力しています。コロナ禍でもあるので、入居者様にもご不便をおかけしておりますが、外出などを控える場合もございますが、健康で暮らせるように努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

料理長によるマグロの解体ショーが目前で披露され、マグロはもちろんのことハマチやサーモン等々の新鮮な江戸前寿司を堪能できる。3名のスタッフが調理師の免許を所有しており、年越しには率先して宿直を希望し、正月には全て手作りのおせち料理を振る舞っている。調査前日はきりたんぼ、当日はだまこを利用者と共に作成したとことで、おいしく見た目も美しい昼食を堪能できた。家庭的でどこか懐かしい献立が数多い。味付け等を利用者に相談し、「今日の〇〇は、〇〇さんの味付けですよ」といった和やかな話が生まれていた。手作りのハタハタ寿司はもちろんのこと、多種多様な魚料理がふんだんに堪能できる。移動販売車が毎週来所しており、コロナ禍で外出が制限される中、利用者の気分転換に繋がっている。ゆったりと過ごし、自分の家と思ってもらうことができるように家庭的な環境を目指しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員一人ひとりが理解し、個人目標を明確にして、日々の業務内容を見つめ直すことを意識し、実践しています。	会社の理念、ホーム独自の介護理念が設定され、玄関等、誰からも目につく場所に掲示されている。理念は、月に一度唱和され、スタッフ個々の思いも発表してもらうことで、日々の実践に繋げている。ゆったりと過ごし、自分の家を思ってもらうような家庭的なホームを目指している。「老春を謳歌・・・」との独自の表現が印象的である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に買物に出掛けたときや、またホーム内や畑から近隣住民の方が見えた時など、声掛けや挨拶による交流を図っています。	近隣の系列有料老人ホームには、ギター演奏、数人でのマンドリン演奏、民謡ショー等々の地域のボランティアが数多く訪問しており、そこに出向いて一緒に満喫することができる。特別支援学校の運動会に招待され、出かけている。看護学校の学園祭で買い物を楽しんだり、生徒との交流を楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地元の養護学校との交流や、歌・舞踊会などボランティアの方を招待しています。運営推進委員会を通じ、認知症の理解や支援について話し合いを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、地域住民、利用者の家族、管理者、ケアマネジャーで構成され、二ヶ月に一度、運営推進委員会を開催し、近況報告や地域性を含んだ話し合いを行っています。	コロナ禍のため感染症対策を重視し、会社の方針であえて開催を中止している。今後の状況に合わせ、開催方法の見直しを考慮している。ホームの状況に合わせ判断するよう市より通知があったが、市として開催場所を提供する旨とのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者がいますので、市役所の担当職員と話し合い、助言等頂いています。また各種手続きに関すること等、関係職員に相談し、話し合うことで協力関係を築いています。	市福祉課の窓口へ直接出向くことが多く、互いに顔の見える関係を維持し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除のための指針を掲げ、職員への周知徹底を図っております。戸外への外出を希望されることもあります。なるべくご希望に添って、職員同伴にて外出しています。年一回は虐待防止についての研修を行っております。	不穏状況になり、他害の危険性を察知した経験があるが、本人に寄り添い、思いを聴き、なだめることに終始したとのこと。身体的拘束(防止)委員会が定期的に開催され、医療連携による看護師も参加している。社内様式の事故報告書でも詳細な内容が確認できた。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種制度について研修等で学んだり、資料を手にとって閲覧できる環境を整えています。必要関係機関と話し合い、活用しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項の説明には十分時間をかけて、理解納得の上での契約を締結しています。質問等があった場合には、ご納得して頂けるように努めています。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	利用者様とのコミュニケーションを図り、ご要望を確認し対応しています。ご家族の面会時やお手紙にて現状報告を行い、相談しやすい環境作りを心掛けています。ご要望は、カンファレンスを行い、サービス提供に反映しております。	管理者の携帯電話番号を全家族に公開しており、毎週のように情報交換する家族もいる。又、タブレットを活用し、遠方の家族と利用者が会話できるよう配慮している。タブレット活用当初は、利用者が映像を写真と勘違いしていたが、今は上手に活用している。私物の携帯電話で家族と自由に連絡を取り合っている利用者もいるが、家族に対しては強がって本心を伝えられない場合もあるため、管理者からも再度連絡をし、本人や家族の意向に齟齬が生じないように努めている。丁寧なやり取りが家族の安心感へと繋がっている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月職員会議を行い、職員の意見等を運営に反映させています。	浸水を想定した避難訓練の必要性について提案があり、実施に繋げている。コロナ禍で外出が制限される中、帰宅願望の強い利用者の外出の必要性についても職員から提案があり、スーパーの空いている時間帯に、安全に利用できるルート等を考慮しての外出を企画している。スタッフの定着率が非常に高く、「利用者さんとの関係が心地よい。」との言葉が印象的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との定期的な交流を図り、現状の問題点などを話し合いながら、サービスの質と意識の向上につなげています。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前調査・面接時に、ご本人が不安を感じないように配慮しています。ご本人に寄り添いながら傾聴を重視した援助を行うようにしています。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必要な情報を伺った上で援助内容を決めて確認を行います。入所後は、情報交換を密に行い、信頼関係が構築できるように努力しています。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力に応じて家事をお願いするなどをして、共同で生活が出来るように努めています。出来たことを共に喜び合えるよう支援しています。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には病院受診や行事への参加をお願いしたり、面会時にはご本人が希望する場所で過ごしてもらっています。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	出来るだけ馴染みのある物や家具を持って来て頂いています。また、面会・外出等で馴染みの方や場所との関係も保たれています。	コロナ禍に対応するため、風除室に仕切りを設置し、シート越しに面会できるよう工夫している。タブレットや電話の活用支援を積極的に行っている。管理者の携帯電話番号を全家族に公開し、いつでも状況確認できる態勢を確立している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあった利用者同士の交流設定、孤立しやすい入居者様には職員が仲立ちを行い、支え合えるような支援をします。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族への連絡を取り、近況を伺ったり、必要に応じて支援できる体制を構築しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や訴えを、職員会議で話し合い職員全員で共有しています。場合によってはご家族にも相談や協力を頂いています。	元主婦の利用者がおり、山菜や菊、もやしのひげとり等々、下ごしらえに実力を発揮している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴やサービス利用状況等をご本人やご家族、また関係者から情報収集し、ご本人の生きがいや趣味などの把握に努めています。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎日の生活状況や会話の中からニーズを拾い上げ、定期的モニタリングを行い情報収集しています。それを元にご家族や関係者と話し合っケアプランに反映します。	全スタッフでカンファレンスし、その内容を回覧し共有している。家族の意見や要望を確認し、計画に反映させるよう取り組んでいる。後見の関係で、弁護士や行政書士と定期的に情報交換し、計画に反映されている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できるよう、連絡ノート、カンファレンスノートに記録し、ケアプランの見直しに活かしています。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ等を積極的に行い、入居者様が生きがいを感じられる支援を行っています。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族が希望すれば、協力医療機関による隔週の訪問診療と、体調の急変時には連絡することで臨時往診があります。また、かかりつけの病院へ定期的に受診される方もいます。	かかりつけ医が訪問している。バイタルチェックをしてもらったり相談に乗ってもらったりするほか、夜中でも駆けつけてくれるため、利用者や家族の安心に繋がっている。訪問看護師の存在も気軽に相談できると利用者から好評である。かかりつけ薬局からは往診日の夕方までには薬が配達され、何でも気軽に相談できる関係性にある。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護ステーションによる医療連携を行っています。個々の状態を見ていただき、情報を伝え、必要な援助が受けられる体制を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院等があった場合、ご本人・ご家族との面会を行います。身体状況の把握に努め、病院関係者やご家族と今後について話し合いを行い支援しています。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化しホームの生活が困難になった場合は、ご本人・ご家族・主治医と話し合い、最善の方法がとれる様に支援しています。入居契約時に、ホームで対応できる部分をしっかりと説明しております。	重度化や終末期の際は、系列の有料老人ホームへの移行が殆どであったが、家族の意向もあり、スタッフが協力し、医師の指示のもと、ホームで看取れるよう準備している段階である。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の基本として、事故対応マニュアルがあり、常に職員が見られるようにしています。また、研修等を行い再確認をしています。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の他、運営推進委員会で協力をお願いしています。	地域住民との交流を更に深めることにより、災害時の際は互いに助け合いを行う等の緊急時の協力体制確保を多角的に進めていきたいとの意向である。市内の介護事業所5者との集まりに参加し、災害時やコロナ禍の対応を情報交換しており、電話でやりとりできる関係にある。ホームに何かあると、集合の指示が無くても利用者を心配して全スタッフが自発的に駆けつけるとのこと。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛けは「さん」付けを基本としています。馴れ合い的な言葉は使わないように心掛けています。	相性の悪い関係に配慮し、両者の生活リズムを把握し、1対1にならないような工夫や、食卓の席替え等で配慮している。細かい観察結果を共有し、否定するのではなく、一緒に対応策を模索するよう努めている。細かい所まで配慮のできるスタッフであるとのこと。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理容・美容院へ行っています。訪問理容を利用している方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家事手伝いが出来る方には調理や後片付けに参加していただいています。簡単な作業や味付け等、食事が楽しみに出来るよう工夫しています。	近隣の同系列の有料老人ホームに出向き、料理長によるマグロの解体ショーが目前で披露され、マグロはもちろんのこと、ハマチやサーモン等々の新鮮な江戸前寿司を堪能できる。ホームでは3名のスタッフが調理師の免許を所有しており、おせち料理も全て手作りである。年越しにはおせち料理に対応するため、率先して宿直を希望してくれる。昨日はきりたんぼ、当日はだまこを利用者と共に作成したとのことで、おいしく見た目も美しい昼食を堪能できた。家庭的でどこか懐かしい献立が数多い。味付け等を利用者に相談し、「今日の〇〇は、〇〇さんの味付けですよー。」といった和やかな会話が生まれていた。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をつけて状況把握に努めています。食べやすい形態にしたり、好きな飲み物や柔らかい食べ物を出したり、栄養・水分が十分摂取出来るよう工夫しています。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けを行い、誘導しています。出来ない方には職員が付き添い誘導し援助を行っています。義歯は洗浄剤で消毒しています。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、個々の排泄パターンの把握に努めています。時間や習慣を把握、トイレ誘導を行い自力での排泄を支援しています。	尿取りパット等で下水がつまったことも過去にあり、排便確認を小まめに実施している。一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、職員間で情報共有しながら、その人なりの排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき便秘の日数を把握し、毎日牛乳・ヤクルトを交互に飲んでいきます。水分補給や食事内容にも気を配り、自然排泄ができるように支援しています。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前に確認を取り、健康状態や希望に合わせて入浴しています。	週に2回は入浴できるよう調整しており、出来るだけ長めに、ゆっくりと湯につかれるよう取り組んでいる。脱衣室は冬でも暖かく工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ラジオ体操・レクリエーション等を行い活動的に過ごせるよう援助することで安眠につなげている。歌番組を楽しみに遅くまで見られる方もおりますが視聴後は満足されて眠られています。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書があり、職員がいつでも確認出来るようになっております。お薬手帳も個々に分けております。全職員がお薬の知識を深め、服薬後の様子観察をしています。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合った役割、掃除・配膳・洗濯物畳みを行って頂き、自信に満ちた日々を過ごせる様に支援しています。また、日々の楽しみとなるような嗜好品の準備を心掛けています。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事に外出する行事を取り入れております。ご家族と一緒に買い物、ドライブ・散歩に出かけられる様に支援しています。また、施設の買い物にも同行してもらい、外出の機会を設けています。	移動販売車が毎週来所しており、コロナ禍で外出が制限される中、利用者の気分転換に繋がっている。用意された買い物籠を片手に、嬉しそうに季節の果物等を吟味する利用者の様子が写真で確認できた。花見や能代公園、つつじ祭り等々、ドライブを兼ね外出を支援している。以前の入居者が有料老人ホームに移行したが、「〇〇さんに逢いに行こう。」との声掛けで、近隣の有料老人ホームに立ち寄る散歩コースが定着している。毎週訪問する看護師がいつも声かけしてくれる。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームでは金銭管理を行わない事にしています。自己管理出来ない人はご本人・ご家族と相談の上預かり金としてホームで管理する場合があります。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして清潔を心掛けています。家庭的な雰囲気気に心掛け、ソファや椅子を配置しています。玄関先にはベンチ・テーブル等があり、外気浴を兼ねお茶の時間を設けたりしています。	玄関やホールは、もうすっかりクリスマスの雰囲気です。正月に向けてスタッフが手作りした門松は、実は利用者とのコミュニケーションツールとのこと。気になる臭いや音は感じられない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファやテーブルを配置し、気のあった仲間同士が安心して過ごせる居場所を提供しています。また、ホール内でも一人になれる空間をご用意しています。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた大切な物、家具等を持って来て頂き、安心して生活が出来るようにしています。ご本人が使いやすいように家具等の配置を行っています。	全ての居室に電動ベッドが配置されている。夫の位牌と生前の写真を居室に持ち込んでいる方が多く、中には、まるで各家々の仏壇かと思う程、仏壇一式を持ち込んでおられる方もいた。ペットのベッドの持ち込みも見られた。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には手作りの工作物を飾り各居室が分かる様にしています。トイレ等の場所がわかるように白線を引いたり、必要な場所にて手すりをつけて工夫しています。		